

Go-Ahead

4 10 年研 第 4 回 保護者対応学校危機管理について アンケートの感想から

今回は弁護士の峯本耕治先生による保護者対応・学校危機管理についてのお話でした。SSW として、また弁護士として、現場で起きる数々の事例に関わっておられるだけに、具体的で分かりやすいお話でした。

愛着障害や、保護者対応、いじめ防止、すべて、今、私の現場の課題となっているものです。今日、教えてもらった、見立てをいかして、なんとかのりこえたいです。

まさに今、困っていることで、今、必要なお話でしたと感想に書かれている方もたくさんいらっしゃいました。

実際の学校現場でよく起こりうるケースの話から、見立てとどう対応すべきかを具体的に教えていただいて、本当に勉強になりました。子どもや保護者の行動にふりまわされたり、感情的にならないように気を付けたりするために本日学んだアセスメント方法を頭に入れながら取り組んでいきたいと思います。

法的な視点や、紛争解決に携わる弁護士としての視点も大変参考になりました。問題は必ず解決すること。保護者からの無理な要求に対しては、合理的な限界はしっかりと告げること。教育的視点に立ち是非々々で対応をすること、抱え込まずにチームで対応することなど、重要なポイントを示していただきました。合理的な理由を持って無理だとなげけることは、見捨ててしまうことではありません。

問題行動を起こしてしまう子どもの背景にある環境に留意すること、「ためし行動」「みてみて行動」などをやる子どもに対して、見通しをもち、チームで計画的に対応することの大切さを感じました。子ども一人ひとりが抱える「困り感」をいかに解消するかがポイントになると感じました。

愛着に課題がある子どもの特徴や見立てなどのお話は教育心理の視点でした。教師は親の代わりにはなれませんが、学校でできる範囲で、愛情を保障し、発達を保障してあげることができます。問題を起こす子どもの原因や背景をアセスメントし、チームで見通しを持って対応することで、子どもたちが、大人への信頼感を回復し、自己肯定感を育てることにもつながります。それは公教育としても大切なことだといえるのではないのでしょうか。

子どものことも、保護者のことも、表出している部分だけを見ず、アセスメントをすることで、その原因・背景に迫り、課題解決へつなげることができそうだなと思いました。ありがとうございました。どうしても保護者のクレームを受けると、こちらも負担に感じてしまい、向き合う気持ちと呼び起こすのにもエネルギーを使いますが、裏側に、「自信のなさ」や「不安感」など、保護者の負い目があることに気付いていると、ずいぶん気持ちの面でも楽になり、向き合いやすく、又、解決への道筋も見出しやすかったです。

学校へ呼び出される親の気持ちや、問題の報告をうけ追い込まれていく親の気持ちが想像できれば、もう少し違った対応が取れるかもしれません。親と協働して子どもの成長に関わることができれば、それほど心強いことはないでしょう。

保護者対応も危機管理も、色々なケースがあって、難しさを感じる人が多いが、無理な要求をしてくるケースやなかなかこちらの意図を理解してもらえないケースなども、その背景にある保護者の状況や思いがあるかもしれないということを考えて、こちらがそれを聞こうとする姿勢を持ったり、共感する態度を持ったりすることで、変わってくることもあるんだなと感じた。いじめの問題なども、日頃の子どもの特性などから関係性をしっかりとらえて、早い段階からシグナルをとらえて対応していくことが大切だなと改めて感じた。

ただ、一方で次のような悲鳴にも似た叫びがあります。第 5 回講座が解決のヒントになるかもしれません。

順序だった説明で分かりやすかったです。できる範囲で的確にとわかっていても、とにかく時間がありません。人員を増やす、個々の業務の負担軽減を叫びます。(担任業・授業準備・クラブ顧問・チーム体制など作れません)